



きれいな色に生まれ変わる

日本塗装工業広島県支部が奉仕活動・11/16 No.6

11月16日を「いいいろ」と読ませる語呂合わせから「いいいろ塗装の日」として、日本塗装工業会広島県支部北部地区による奉仕活動が行われました。

この活動は、広島県支部に加入している市内の塗装業者が市の公共施設などを、ボランティアで塗装するもので、平成11年から行われています。これまでも、保育所をはじめ、公園の遊具やベンチなどさまざまな施設を塗り直しています。

本年は、上野総合公園の弁天橋の塗り替えが行われ、きれいな朱色へと生まれ変わりました。

塗装作業をした人は「きれいになった橋を見に来てもらいたい」と話しました。



▲見る見るうちにきれいな朱色に塗装されていく弁天橋

わんぱくお通り隊！出陣！

東城保育所「わんぱくお通り隊」・11/6 No.8

「街道東城路」沿いの東城まちなか交流施設えびす周辺で、東城保育所園児による「わんぱくお通り隊」が披露されました。

東城保育所は、東城の文化・歴史の伝承体験として、伝統行事「お通り」を模した「わんぱくお通り隊」を行っています。本年もコロナ禍の影響で、町内のイベントでの披露はできませんでしたが、地域に子どもの元気と笑顔を届けたいとの思いから、独自に行われました。この日は天気も良く、園児は「下にー、下に！」と元気な声を響かせ、街道を歩きました。

また同日は、東城まちなか交流施設えびすや三楽荘で、写真や生け花の展示も行われ、市内外から訪れた人でにぎわいました。



▲大きな掛け声で街中を歩く東城保育所の園児

日本記録の走り方を学ぶ

総領小学校「走り方教室」・10/22 No.5

総領小学校で「走り方教室」が行われ、全校児童45人が参加しました。

教室では、元オリンピック選手で、400メートルハードル日本記録保持者の為末大さんから、足が速くなるストレッチやハードルの跳び方などを教わりました。

為末さんは「ハードルは、壁を突き破る気持ちで飛べば良い」とアドバイスし、児童は真剣な表情で聞いていました。

最後には質問コーナーも行われ、「緊張した時はどうしますか」など、次々に質問していました。

児童は「走るコツも教えてもらったので、これまでより速く走れそうな気がする」と喜んでいました。



▲ハードルの説明をする為末さん（写真右）

地域の協力で防犯をアピール

防犯かかしコンクール・10/11～20 No.7

庄原市防犯組合連合会主催の防犯かかしコンクールが庄原警察署で開催されました。このコンクールは、地域住民の防犯・安全意識を高めることを目的に、毎年開催されています。

本年は、市内15地区から振り込め詐欺の防止や誹謗中傷の撲滅、盗撮への注意などをテーマにしたかかしが出展され、西城地区防犯組合八銚落合班が大賞を獲得しました。

開催期間中は、趣向を凝らしたかかしを見ようと多くの人が庄原警察署を訪れていました。

かかしを見に来た人は「毎年楽しみにしている。今回もさまざまなキャラクターのかかしがあり、面白かった」と話しました。



▲大賞を獲得した作品（中央）

キャッシュレスで楽しむ

備北もんマルシェ・なみかマルシェ・10/31 No.2

「備北もんマルシェ・なみかマルシェ」が国営備北丘陵公園北入口エリア「里山の駅庄原ふらり」で開催され、約3,200人が訪れました。

このイベントは、地域の特産品販売と「な・み・か」「ほ・ろ・か」カードの推進を目的に開催され、カードを持参した人や、複数店舗で買い物をした人に追加でポイントが進呈されるなど、多くの特典がありました。

当日は、市内の飲食店や雑貨販売店を中心に23店舗が出店。近隣地域のバンドやダンスチームなどのステージイベントも行われ、大盛況の一日となりました。

来場者は「たくさんポイントがもらえてうれしかった」と話しました。



▲多くの来場者でにぎわう「里山の駅庄原ふらり」

口和の名所がリニューアル

モーモー物産館リニューアルオープン・11/1 No.4

本年2月から利用を休止していた「モーモー物産館」がリニューアルオープンしました。

新たに開店した飲食店「麺処おおつき亭」では、そばやうどん、おでんなどの軽食を販売。農産物販売コーナーでは、近隣の農家の皆さんが育てた新鮮な野菜をはじめ、山菜、加工品などが販売されました。

また、オープンに合わせ期間限定で「おでかけ満月マルシェ」が開催されました。ホットサンドやシフォンケーキ、惣菜、手作りパンなどが販売され、来場者は買い物を楽しみました。

モーモー物産館の岩瀬清文さんは「口和の活性化のためにも、今後も大勢の人に来てもらいたい」と話しました。



▲来場者でにぎわうモーモー物産館

地域支援のために

新型コロナウイルス感染症対策寄附金・11/8 No.1

広島みどり信用金庫から、新型コロナウイルス感染症対策への支援として、市に50万円が寄附されました。

同信用金庫の小林明宗理事長は、「新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で地域支援に役立ててほしい」と話しました。

木山耕三市長は「感染症から市民生活と地域経済を守る取り組みに、有効に活用させていただくと、今後の使途について説明しました。」

この他、ふるさと応援寄附金などにより、新型コロナウイルス対策として心温まる寄附を頂いています。



▲小林理事長（写真右）より木山市長へ寄付

いろんな仕事を知る機会に

庄原でいきいき働く就職ガイダンス・10/18 No.3

庄原でいきいき働く協議会と本市、ハローワークが合同で「庄原でいきいき働く就職ガイダンス」を開催し、市内の事業所など34社が参加しました。

この就職ガイダンスは、午前と午後の部に分けて、庄原市総合体育館で開催されました。

会場では、事業所ごとにブースを設置し、午前の部は、市内の高校生と特別支援学校の生徒を対象に、事業所の紹介や仕事内容の説明が行われました。

午後の部では、求職者やU・I・Jターン希望者を対象とした合同就職面接会を開催し、市内外から多くの人が参加しました。

参加者は「いろいろな業種の仕事があり、会場内でたくさんのお話が聞けて良かった」と話しました。



▲事業所の説明を熱心に聞く参加者



花と笑顔でにぎわう交流会

世代間交流「花の苗植え」・11/9

No.10

比和自治振興区主催の世代間交流「花の苗植え」が比和温泉施設あけぼの荘で行われ、比和保育所の園児と比和山老人クラブの皆さんが参加しました。

当日は、園児の自己紹介や歌の披露などで交流をした後、老人クラブの人に植え方を教わりながら、プランターへ花を植えていきました。

園児は「いろんな花があって、とてもきれい」とうれしそうに話し、交流を楽しんでいました。

後日、花のプランターに、園児が花の名前や絵を描いたプレートを取り付け、あけぼの荘に飾りました。



▲花の植え方を教わる園児

大きな声で「火の用心」

防火パレード・10/26

No.9

火災の発生しやすい時季を迎えるに当たり、防火意識の高揚を図るため、市内各地域で火災予防運動が行われました。

西城地域では、庄原消防署西城出張所と西城保育所、庄原市消防団西城方面隊、庄原警察署西城交番が合同で、防火パレードを行いました。

まず開会式では、おそろいの法被に袖を通した園児21人が「火遊びはしません」と、元気に声をそろえて火災予防を約束しました。その後、参加者は拍子木をカチカチと鳴らしながら約1.5キロの道のりをパレードし、町内には「戸締り用心火の用心」と元気な掛け声が響いていました。



▲防火パレードに参加した西城保育所の園児

町の特産物・リンゴを学ぶ

授業で特産物のリンゴを収穫・11/18

No.12

高野小学校は、総合的な学習の時間に特産物のリンゴの栽培に取り組んでいます。

この日は、高野町下門田の「農青連果樹部会展示圃」で5年生10人が参加し、リンゴの収穫を体験しました。

児童は、長い脚立を協力して使い、リンゴを一つ一つ丁寧に収穫しました。肌寒い中の作業でしたが、全員夢中になって、楽しそうに作業を行っていました。

収穫したリンゴは、コンテナ5つ分にもなり、児童は「リンゴを傷つけないよう、枝から丁寧に取るのが大変だった」と話しました。

児童が収穫したリンゴは、選果・袋詰めをして、道の駅たかので販売されました。



▲収穫作業をしている児童

青少年の健全育成に貢献

青少年育成県民運動推進大会・10/30

No.11

広島市で青少年育成県民運動推進大会が開催され、庄原地区青少年健全育成協議会が功労者等知事表彰を受けました。

この表彰は、青少年健全育成のために積極的に活動し、その功績が特に顕著な個人や団体に対して行われるものです。

当協議会は、平成17年から週1回程度、関係機関と協力して、市街地にある商業施設などを巡回し、下校中の児童・生徒に帰宅が遅くならないよう声掛けを行ってきました。

表彰を受けた当協議会代表の塩本千恵子さんは「子どもたちのため、これからも活動を続けていきたい」と話しました。



▲表彰式で賞状を受け取る塩本さん（写真左）